

市民と専門職がつながる仕組みづくり ～さかいお節介士ネットワーク～

柴本 美佐代 氏

一般社団法人日本エルダーライフ協会
代表理事



1.活動の背景

当協会は介護者の支援を目的に、認定資格『お節介士』を創設し、介護者に必要な知識や情報を提供するボランティアの育成を行ってきた。

堺市では2012年から介護者のレスパイト啓発事業を行っていたが、4年目となる2015年からは実際に介護者支援の担い手を育成しようと『お節介やさかいプロジェクト』を開始した。

『さかいお節介士』の養成を始め、2017年度末までに296名が誕生した。しかし、現在約80名が登録ボランティアとして堺市の啓発イベントや養成講座、勉強会の運営を行っているのみで、本来の身近な介護者への情報支援と見守り活動をサポートする仕組みはない。当協会では市の事業とは別に市民講座を年1回開催し、地域の医療介護資源の紹介や専門職と関わる機会を作ってきた。しかし、個人的な活動のためには地域に密着した医療介護の情報と専門職との連携が必要で、継続的な学習も不可欠である。

2.目的

すでに教育を受けた『さかいお節介士』が地域の専門職と連携することで、より地域に密着した活動や情報支援を行えるようにする。

3.計画

- (1)在宅医療介護に関する市民講座の開催
- (2)『さかいお節介士』と専門職の交流事業
- (3)『さかいお節介士』支援事業者の募集、登録
- (4)個人の活動評価のシステムづくり

4.期待される効果

市民ボランティアは意欲があっても知識や情報を得る手段が限られている。しかし、地域の専門職や事業者とつながりを持つことによって、介護者や高齢者に必要な知識や情報を『さかいお節介士』という市民の手で届けることができるようになる。住民が医療や介護の地域資源を熟知することは、在宅介護や療養の手助けとなるだろう。また、高齢者が自分自身の将来だけでなく、地域としての介護や医療を考える意識改革になることも期待している。

5.意義

『お節介士』の名前の意味は『身近な人だけに行う日常生活で無理せずできる社会貢献』である。

「普通の人が少し勉強して、ご近所や友人にお節介をする気持ちで活動してほしい」との想いが込められている。だからこそ、全ての地域で多くのお節介士の活動が必要になる。

堺市では行政が事業として取り入れたことで全ての区に『さかいお節介士』が存在している。このことの意味は大きく、地域包括ケアの土壌を育む要素となり得る。市民一人一人が医療介護の制度の目的を知り、正しい知識を身につけることが実現の第一歩となる。オレンジカフェや家族会など制度以外の資源も、その地域の住民が存在を知ること、より有意義なものとなるだろう。